

### 【研究主題】

人口減少地域の課題解決を素材とした主権者として必要な資質・能力を育む教育の実現方法～地域課題の探究と道徳的価値の探究を「入れ子構造」に設計して～

### 【開発するプログラムの概要】

人口減少先進地域が直面する現実的課題の解決に向けた探究学習を構想するとともに、主権者として必要な資質・能力の育成を目指す学習を「入れ子構造」※で設計した学習プログラムの開発。 ※「入れ子構造」：探究サイクルと習得サイクルが、時期を置いて連鎖する仕掛け

### 実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・1年生> 公民科（現代社会）※R3年度の実践

【単元名】共に生きる社会を目指して((3))

#### 【主な単元の目標】

現代社会の諸課題について、幸福・正義・公正等の観点から地域の「ありたい未来」の形成者として考察し、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動をとおして、主権者として必要な資質・能力を育む。

#### 【学習課題】

「第2次川根本町総合計画」の進捗状況を評価し、「こうありたい」と思える未来の実現に向けて政策を提言しよう。

時間	主な学習内容	
	公民科（現代社会）	関連付けた他教科等
通年		総合的な探究の時間 「小高交流」
1	地方自治・財政の現状と課題	情報科 「オープンデータの活用」
2/3	「第2次川根本町総合計画」の分析	情報科 「統計分析」
4	「広報かわねほんちょう」「川根本町議会 会議録」の分析	家庭科 「社会保障の考え方」
5-9	政策づくり	総合的な探究の時間 「プレゼンのコツ」
10	小高合同で町長へ政策提言	

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号  
※このほか、3年生についても研究を行った。

【実践例】※ 現代社会「小高合同で町長へ政策提言」第10/10時

#### 授業の概要

#### <概要>

月1回のペースで近隣小学校と交流して築いた関係性を土台にして、小学生と高校生がそれぞれ「町が直面する現実的課題にどう対処するか」の観点から政策づくりに取り組んだ。高校に町長などを招き、小学生と合同で政策提言を行った。

#### <指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- ・町の総合計画や広報誌、議会会議録を活用することで、自分たちの地域の課題についてより具体的に考える支援とした。
- ・町長など町役場幹部職員と小学生の前で発表する機会を設け、生徒の地域への主体的な参画意識を高め、相手に伝わりやすい発表や表現を工夫するよう意識させた。
- ・生徒が自分事として捉えられるように、生活者としての満足度を優先して政策提言するよう意識させた。
- ・生徒・教員・外部人材ともに、お互いの立場を意識した「共感」を議論の中で意識させることで、連携・協働の意識を高めるようにした。

○公民科と他教科等との連携

- ・「町が直面する現実的課題」を共通言語に、左記の複数の教科等において、生活者としての視点を重視させながら内容を扱った。
- ・関連する内容が連動するようにカリキュラム・マネジメントを行った。



#### 専門家や関係諸機関等との連携・協働

- 川根本町企画課、川根本町教育委員会、川根本町青年会議所
- ・政策提言時だけの単発の関わりではなく、教育活動の伴走者として授業計画段階から継続的に関わってもらった。
- ・学校設置者の違いを越えて連携しつつ、学校は担うべき学習指導に集中するため、町役場との調整については、青年会議所に仲介役を担ってもらった。

#### 効果等

- ◆「社会的事象や地域課題を自分事として捉えようとしたか」に対する自己評価 肯定的回答97.4%
- ◆「自分たちの学校は自分たちでつくる」「自分たちの学校をどうやって改善していくか」という意識の高まり

### 【研究主題】

持続可能な社会づくりに貢献する公民的資質の育成～持続可能な防災まちづくりの提案を通して～

### 【開発するプログラムの概要】

将来の持続可能性が危ぶまれるまちの課題を協働して調査・分析し、自ら提案した解決策を相互評価し他者へ発信する活動を通じて、持続可能な社会づくりに貢献できる公民的資質を育む学習プログラムの開発。

### 実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・3年生> 公民科（現代社会）

【単元名】持続可能な防災まちづくり（3）

【主な単元の目標】持続可能な防災まちづくりに貢献する資質の育成

【学習課題】浜松市南区で地震・津波の被害を最小限にし、地域の防災まちづくりに貢献するにはどうすればいいか？

時間	主な学習内容	
	公民科（現代社会）	関連付けた他教科等
1/2	地域課題の概要理解 課題の設定	総合的な探究の時間
3/4	課題の調査・分析	
5/6	解決策・作品の提案	商業科
7	<b>中間発表・相互評価会</b>	ホームルーム活動
8-11	<b>解決策の調整・再提案</b> 作品・成果物の制作	商業科
12/ 13	地域での発表・交流・発信	総合的な探究の時間
14	レポート作成・まとめ	

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

※このほか、2年生についても研究を行った。

【実践例】※公民科「中間発表・相互評価会」「解決策の調整・再提案」第7・8/14時

### 授業の概要

#### <概要>

- 3年生202人が興味に沿って6ジャンルから一つ選び、2～4人班（計67）を作って、課題設定から解決策の提案までの活動を行った。成果を同ジャンルの他班と共有するため、中間発表・相互評価会を体育館で実施した。
- 発表会では、「解決策・成果物の内容」「連携する地域の方」「地域の方に理解して貰うための注意点」を発表し、他班から評価（実現性・貢献度・魅力度）と改善のコメントを貰った。
- 発表会で貰ったコメントから、解決策の改善が必要な点を班内で共有し、タブレットを用いて再調査・提案を行った。地域の方への連絡・質問やフィールド調査を行って成果物を作った。

#### <指導上の工夫>

**○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫**

- ・地域の防災に貢献するために必要な視点（地域の実情・ニーズ）を意識させ、全員が地域の方に学習成果を直接発表・発信・交流する機会を通して、地域の課題を自分の課題意識へと結び付けた。地域の方から評価を貰うことで、自らの取り組みが防災の役に立っていると実感させ、社会的課題への主体的態度を涵養した。
- ・主に商業科と連携し、情報処理（スライド・ドキュメント作成等）の技術や持続可能性の理念と企業活動を学習することで、解決策作りの土台を形成した。

### 専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・市役所・南区役所の担当者より講演いただき、行政への提案に対する講評を頂く。
- ・近隣自治会連合会や地域防災訓練への参加・交流とチラシ等を地域で配布。



### 効果等

◆「持続性を問う5観点」（分析度・継続性・魅力度・リスク・実現性）等を活用し、地域防災への貢献に向けた提案・成果物の修正（改善）がなされたのは、202人のうち、173人。

◆地域への参加意欲や主体性を見取るアンケートで、最終的に、自らが地域の課題にとっても関わりがあると答えた生徒が49%の98人（R3の23%から大幅改善）。また地域の課題解決によく貢献したいと答えた生徒が83人だった。一方、「自分ひとりの力では地域は変えられない」と結論付ける生徒もいた。